

花育への挑戦

1. はじめに

花育とは、花や緑に親しみ、育てる機会をとおして、やさしさや美しさを感じる気持ちを育むこと。近年では食育と並び、植物を介した情操教育の一環や地域コミュニティの再構築、四季に応じた日本の花文化の継承への期待を込め、提唱されている。

兼ねてより、花や緑が人に与える効果は大きいと感じており、花育に関心を持った。将来は花育士として花育活動の普及に携わっていきたいため、学生生活では、ワークショップにアシスタントとして積極的に参加してきた。その経験を活かし、ワークショップの企画・運営を行うことを本卒業研究の最終目的とした。

2. アシスタント活動報告

これまでのアシスタント活動の報告書を①参加者、②講座内容、③学び気づきとし、以下にまとめ、ワークショップの企画・運営の参考にした。

オープンキャンパス	緑の学園	生涯学習講座
①高校生・一般の方 ②升アレンジメント ③「1つ褒めて 1つアドバイス」をする	①県内の高校2年生 ②トピアリー花束 ③事前に試作することで 的確なアドバイスが可能	①小学生以下の親子 ②クリスマスリース ③子どもの発想力は無限で 面白い
花と緑の連携授業	園芸療法	岐阜の花で飾ろう私の学校
①高校生 ②アシスト花束 フレグランスアレンジメント ③香りと思い出はリンクする	①デイケア利用者 ②アレンジメント・寄せ植え 〃・カラーサンドアート ③手に力が入りにくいため 器を押さえる等の補助が必要	①小学生 ②アレンジメント ③対象者に合わせた言葉選びを すると伝わりやすい

3. ワークショップの企画・運営

「つくろう せかいに ひとつだけを」をテーマに企画・運営を行った。

(1) 園児向け講座

【参加者】美濃保育園年長児26名

【場所】美濃保育園子育て支援棟

【講座内容】試験管つきフォトフレーム

【参加費】無料

【材料費】9,680円

【気づき・学んだこと】

- ・集中力が続くか懸念があったが、
真剣な眼差しで夢中になって制作していた
- ・こちらの想像以上に材料に興味を示していた
- ・制作スピードに個人差はあるものの、
説明を理解して作業していた
- ・糸選びの際、ケンカにならないか心配していた



が、お互いに譲り合っていて決めている姿が印象的だった

- ・同じ支給材料なのにどの作品にも違いがあり、発想に刺激を受けた

(2) 保護者向け講座

【参加者】美濃保育園年関係者10名

【場所】美濃保育園子育て支援棟

【講座内容】試験管つきフォトフレーム

【参加費】2,000円×10名=20,000円

【購入費】6,230円（学内調達分除く）

【参考経費】14,580円（学内調達分含む）

【気づき・学んだこと】

- ・香りのあるシナモンやスターアニスは好評だった
- ・クリスマスだけでなくオールシーズン飾れるデザインにされている方もいた
- ・作業工程をシンプルにしたので、制作時間を長く確保できた
- ・同じ土台で必ず試験管をつけるというルールだけだったのでテーマ通り「せかいにひとつだけ」の作品になった



4. 卒業研究を通して

花育への理解を深めるため、学生生活では、ワークショップにアシスタントとして積極的に参加をしてきた。当校主催のワークショップに参加し始めた頃は、花材の切り分けやトーン別にまとめるだけでかなりの時間を要していた。参加者にどのように話しかければよいか、どう動けばいいかなど悩んでしまっていた。参加回数を重ねるうちにイエローアンダートーンとブルーアンダートーンを見分ける力が自然と養われ、花材の仕分けにも時間がかからなくなった。緊張していた参加者とのコミュニケーションでは、吉田先生からアドバイスいただいた「1つ褒めて1つアドバイス」をするということを実践してみると楽しいと思えるようになり、後輩のフォローもできるようになった。講座の準備や当日のサポートは、対象者に合わせ柔軟に対応しており、入念な事前準備の大切さを学んだ。アシスタント経験では幅広い年代の方と交流することができ、特に園芸療法は花育と通じる部分もあり、とても貴重な経験となった。

実際に自分でワークショップを企画・運営してみると講座内容を決め、イメージに合う花材や資材を選び、手順や当日のスケジュールを組んだりとやることの多さや難しさを感じた。また、当日アシスタントをしてくれるスタッフに的確に指示を出すこと、参加者にわかりやすく伝えることの難しさを学んだ。講座中は発想に刺激を受けることも多く、こちらが意図しないところで興味を示してくれることもあった。私は、技術向上ではなく、花や緑に親しみをもち、個々のこころや可能性を育むことが花育の大きな目的だと考えている。そのため、固定概念にとらわれずに、こちらも柔軟に捉えると、のびのびとした発想を最大限活かすことができると思った。将来花育士として花育活動の普及に携わるべく、とても学びの多い経験となった。